

平成28年度 県立鬼怒商業高等学校自己評価表

目指す学校像	本県教育の目標・校訓をふまえ、地域社会の要望に応えながら、人間性豊かな個性の伸長を図り、教養ならびに専門的知識を高め、自主性・自立性を備え、時代の変化やグローバル化に対応できる、心身ともに健全な、国家社会に有為な人材を育成する。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>平成27年度末に各部・各項目別に成果と課題について検討を加えた。</p> <p>教務部 ○各教科とも教材等の工夫をし、わかる授業の展開を心掛けていた。また、学習意欲の低い生徒に対する指導が放課後・長期休業をとおして実施された。 ○授業時間の確保には、教員間の意識が統一され、出張・年休等の際の振替やもらい授業により自習時間が減少した。 ○心の教育では、1学年生徒全員がなんらかのボランティア活動に従事し、社会に奉仕する心を育み、地域社会に貢献することができた。 ○広報活動については、学校説明会や中学生の体験入学及び出前授業等を実施することで商業教育のPRを行った。さらに鬼怒商だよりを作成し、近隣の小・中学校や学習塾、卒業生がいる企業などに配布した。 【次年度への課題】 ○わかる授業に向け、授業の工夫と指導力向上を目指し、授業公開等の機会を増やし、研修の充実を図る。 ○生徒に対し、授業への取り組み、学習に対する意欲を持たせる。 ○生徒の実情や学校の特性に合う教育課程の編成を考える。 ○ボランティア体験を生かし、地域の他のボランティア活動にも自主的・積極的に参加できるような生徒を育成する。 ○広報活動については、安定的な定員確保のために今後も様々な取組の充実を図る。</p>	<p>学力の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・わかる授業を推進し、学力の向上を図る。 ・授業時間の確保と授業内容の充実を目指す。 ・課題の提出や予習復習を徹底させて、家庭学習の習慣付けを行う。 ・教員間の授業見学や指導法の研修等を通して、指導法を工夫改善し、指導力を高める。 ・学習意欲の低い者への組織的・計画的な指導を行う。 ・資格取得のための課外授業の実施に努める。 	
<p>進路指導部 ○各学年とも実施したキャリアガイダンスや行事等が生徒の実態と本校の進路状況を踏まえた啓発的・体系的な内容であったこと、進路に関する情報を適切に得させる内容で大変良かった。進路決定率は、進学・就職共に100%である。(H28.3.1現在) ○インターンシップについては、今年度25箇所の実習先に於いて就職希望者の91名が体験することができ、生徒にとって貴重な経験となった。 【次年度への課題】 ○今後も卒業まで規則正しい学校生活が送れるように日々の指導をすることで、企業の即戦力として対応できるようにする。また進学先での進路実現に向けて継続的に努力できるようにする。 ○次年度もインターンシップをとおし、地域社会や企業への啓発と生徒の自主的な進路決定に活かす。</p>	<p>安定的な定員の確保に向け、 商業教育の活性化と広報活動に 努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙・ホームページ等で商業教育の広報活動を積極的に推進する。 ・地域と連携した商業教育の推進を行う。 ・効果的な体験入学を実施する。 	
<p>生徒指導部 ○接触事故に遭った場合、相手と話し、その場で警察・学校・保護者に連絡が取れるよう指導を徹底した。 ○問題行動の未然防止のための取り組みについて、講話、集会、学校生活アンケートを行った。 ○毎朝の立哨指導や授業をとおして服装違反(女子のスカート丈)や遅刻について、継続的に指導をした。 【次年度への課題】 ○問題行動の未然防止のための取り組みについて、集会やLHR等を活用して、様々な問題行動について考えさせ、事件事故等の未然防止に努める。 ○より効果的な服装指導や遅刻指導実現のために、全職員が共通認識で取り組めるようにする。また、服装指導強化週間の実施を考えたい。</p>	<p>進路指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に関する適切な資料や情報の提供、案内、説明、相談などのキャリアガイダンス機能の充実に努める。 ・キャリア教育を発達段階に応じて適切に実施することにより、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力や態度を育てる。 ・進路実現100%を目指し、進学課外や教職員及び外部講師による模擬面接指導などの推進に努める。 ・ホームルーム活動における進路学習や進路相談の内容を吟味し、段階的、系統的な展開に努める。 ・教職員による求人確保及び開拓を推進する。 ・就業体験(インターンシップ)をとおして職業意識の啓発を図るとともに、進路選択を具体的に意識させる。 	
<p>特活部 ○円滑な学校行事運営を実現できたが、体育祭では生徒会主体の立案・実施を実現させ、生徒の自主・自立の心を育むことができた。 ○生徒会活動の定例化や各部活動の目標設定については十分とはいえなかった。 ○運動部での美化活動については定期的に実施できた。 【次年度への課題】 ○次年度は文化祭があるので、早めに準備に取りかかりたい。 ○次年度以降、生徒会役員立候補者に対しては、生徒会活動について事前に理解させた上で立候補を承認していきたい。 ○運動部での美化活動については次年度も定期的に実施していきたい。</p>	<p>生徒指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立に努める。 ・服装頭髪等の身だしなみ指導の徹底を図る。 ・問題行動や事故の未然防止に努める。 ・特別指導の充実改善を図る。 	
<p>環境整備部 ○教室のワックスがけ、モップ交換等年間計画通り実施できた。 ○年2回の校外・通学路のボランティア清掃は、部活動有志の協力を得て実施できた。 ○ゴミの分別に関しては、業者から数回クレームがあった。 【次年度の課題】 ○生徒の環境意識や美化意識を向上させるために、学期ごとの目標設定や実施方法を工夫改善していきたい。 ○ゴミの分別の徹底を図る。</p>	<p>特別教育活動の活性化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会及びHR活動の活性化に努める。 ・部活動の活性化に努める。 ・文化祭等の学校行事の充実に努め、生徒の主体的参加を促す。 ・ボランティア活動を推進して、奉仕する喜びを知る。 	
<p>図書部 ○水害により図書の購入ができなかった分、来年度新しい本をそろえていきたい。 ○無断持ち出しがないように徹底したい。 ○図書だよりを予定どおり、発行できた。 ○水害のため図書室を授業、会議等多方面に利用することで結果的に利用率が高まった。 【次年度への課題】 ○新刊本を購入して、生徒の読書に対して興味関心を高めたい。 ○図書の無断持ち出しを防止しながら、一方で図書室利用率を高めていく方法を考えていかなければならない。</p>	<p>安心・安全な学校づくりの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・心身ともに健康な生徒を育成する。 ・自主的に安全を守る能力を養う。 ・学校の環境衛生について適切な維持管理に努める。 ・自らの考えを口頭や文書で的確に表現する力を養う。 	
<p>渉外部 ○PTA総会の出席率は43%で昨年をやや下回った。 ○PTA研修視察旅行とPTA支部研修会は水害のため自粛になった。 ○PTA本部役員会で水害にさいし、本部役員から各支部に働きかけ、約50万円が集まり寄付された。 ○スクールバスの運賃は、国土交通省の新基準に従い、値上げをせざるをえなかった。 【次年度への課題】 ○PTA総会の出席率の向上。 ○スクールバス運行委員会を中心に、今後の値上げがおこなわれないよう業者と交渉していく。</p>	<p>コミュニケーション能力の育成 ビジネスマナーの修得に務める</p>	<ul style="list-style-type: none"> 他人の言葉や意見に素直に耳を傾け、相手の気持ちを推察する能力を養う。 ・挨拶の励行とビジネスマナーの徹底 	
<p>保健厚生部 ○水害の為「臨時保健室」を設け対応した。利用者の増加とともにマナーの悪さや意図的な目的での利用も見受けられた。 ○検診検査後、再検・要検査などを指導し改善を図れたと思われる。 ○各担任、教科担当者の協力と臨機応変な対応で適切に使用し、生徒の健康管理にも配慮できている。 【次年度への課題】 ○利用者のマナーの悪さや意図的な利用も見受けられたので、指導と対策を検討したい。 ○検診検査時の生徒のマナーの改善が必要である。 ○防火・防災避難訓練の実施。</p>			
<p>情報管理部 ○ホームページの更新は、更新時期に合わせ不具合なく行うことが出来た。USB等外部記憶装置の使用について、水害で多くのPC機器が被害を受け9月からガイドライン通り行うことが出来なかった。クラウドの構築も年度末にずれ込んでしまった。システム変更の不具合は無かったが、被害を受けたシステムの復旧に手間が取られ、新しいシステムへの整備が後手になってしまった。 【次年度への課題】 ○新しいシステムへの整備を進めたい。</p>			

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度への課題
教科	国語	授業に意欲的に取り組む態度を育てる。	ノートや課題集等を学期毎に（年間3回以上）点検することを通して、授業に集中して取り組む態度を育てる。	
		場に応じた適切な表現力を身に付ける。	授業時間の冒頭にスピーチを行い、相手が理解できるように話し方や非言語分野を工夫することで、コミュニケーション能力の向上を図る。	
			俳句・短歌等への積極的な応募を通し、複数入選を目指しながら、自らの感性を磨き、書くことをとおして相手に伝える表現力を育てる。	
		家庭学習の習慣化を図り、自発的な学習態度を育成する。	定期考査に向けて宿題を課したり、長期休業中（夏、冬）に課題集等を必修の宿題とするなどし、定期的な家庭学習の習慣を身に付けさせる。	
	社会	時事的な話題等を積極的に授業に盛り込み、授業への興味・関心を高める。	視聴覚教材や新聞、インターネット等の資料を効果的に活用する。	
			発問を工夫し対話型の授業展開を心がけ、生徒への授業の参加を促す。	
		教科の基礎学力の定着をはかる。	授業内容の確認プリントやノートの指導（点検）等、きめ細かい指導を行う。	
	数学	教科書の内容に基づく基礎学力の定着を図り、発展的な事象も取り扱う。	より多くの例題を通し、体験的に理解できるように工夫する。	
			課題や学習ノート提出により、理解不足の生徒への対応を迅速に行う。	
			各定期考査で、発展的な事象も取り入れ、60%以上の習熟を目指す。	
	理科	基礎的な学習の向上を図る。	商業科・情報ビジネス科において、希望に応じて課外を実施する。	
		科学に対する意識・関心を高め、科学的な思考力を身につける。	身近な物質や現象、最新の科学情報等を話題として提供し、科学に対して関心を持たせる。	
物理実験室・改修済化学実験室の利用を高める。		実験室・屋外を利用して、より具体的にわかりやすい授業を行う。		
体育	体力の向上と各種運動技能の習得に努める。	体力テストA及びBの割合を55%を維持する。		
	できる喜びを実感できる授業実践に努める。	卒業課題の合格率90%以上を目指す。		
	体育的行事とのタイアップをはかる授業を展開する。	クラスマッチ、体育祭等の学校行事に向けた意識付けにおいて、集団における協調性を身につけさせる。		
	よりよい体育授業の実践を図る。	担当者全員による学期1回以上の実技研修会を実施する。		
保健	生涯にわたって必要な知識・技能の習得を図る。	最近話題のニュースを取り上げ、生徒の実生活に密着するよう、各場面での思考・判断能力を養う授業展開を図る。		
英語	基礎学力の向上に努める。	単元ごとに小テストを実施し、基礎学力強化を目指す。		
		課題や学習ノート提出により、理解不足の生徒への対応を迅速に行う。		
	資格取得のための指導に努める。	全商英検3級合格60%を目標に、上位の級の合格者も出るように合格対策課外を実施する。		
	実践的コミュニケーション能力の向上に努める。	LL教室や音声機材を効果的に活用し、コミュニケーションに必要なリスニング能力を強化する。		
学期に1回パフォーマンステストを実施し、実践的なコミュニケーション能力を育成する。				
家庭	基礎的・基本的な知識と技術を理解させ、実践的な能力や態度を身につけさせる。	実験・実習を多く取り入れ、具体的にわかりやすい授業を展開する。		
		プリントやワークを活用して、基礎的な知識を定着させる。		
		実習授業において、個別指導や補講を行い、全員に作品完成の達成感を持たせる。		
家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	ホームプロジェクト活動を通して、家庭生活の質を向上させる。			
商業	学力の向上を図る。	学力向上のために検定試験全体で、60%以上の合格を目指す。そのための課外と平常時の課外を実施する。		
		科目ごとに授業研究を行い、工夫改善をして学力向上に努める。		
	商業教育の広報活動に努める。	商業教育の理解を深め、地域と連携した商業教育の推進を図るため体験入学や出前授業を実施する。		
	ビジネスにおける実践力の育成を図る。	総合実践をはじめ、すべての商業科目の中でビジネスマナー及びコミュニケーション能力を身につける工夫をし、育成する。		

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度への課題	
校務分掌	教務	生徒の学力の向上に努める。	基礎学力の定着とわかる授業の展開を心掛け、学習意欲を喚起する。	【達成状況】 【次年度への課題】	
			指導力向上のために授業公開週間を設け、教員の研修の場を設け、スキルアップを図る。		
			学習意欲の低い者への組織的・計画的な指導を行う。		
		授業時間の確保に努める。	年休・出張の際の授業を原則振り替えとし、週当たりの自習時間を2時間以内とする。		
		教育課程の編成に努める。	本校の目指す学校像や生徒のより良いキャリア実現のための教育課程を編成する。		
		内規の検討をする。	本校の現状をふまえ、改正した内規の問題点を話し合う。		
		学業不振による転退学者の減少を目指す。	成績不振の生徒のために補習や課外を計画的に行う。		
		心の教育担当：奉仕の精神や社会貢献への関心を高め、社会連帯の精神を育てる。	結城特別支援学校との交流事業や地域イベント等におけるボランティア活動を推進し、社会に奉仕する心を育む。		
			※心の教育 【達成状況】		
	ボランティア活動を1学年全員に体験させ、豊かな心・地域に貢献する心を育む。	各ボランティア活動の事前・事後指導を確実にを行い、道德の授業との連携を図る。			
	生徒指導	生徒全員に朝の挨拶をさせる		登校指導において、挨拶がかえってくるまで呼びかけていく。	【達成状況】 【次年度への課題】
		服装・頭髪等について校則を守らせる		登校指導、授業、休み時間等において、違反を見逃さず、全職員で呼びかけていく。服装チェックカードを活用し、段階的指導を行い、校則違反をなくすよう努める。	
		遅刻者数を大幅に減らす		8時35分過ぎに昇降口と教室でダブルチェックをして遅刻の取り扱いを統一する。遅刻カードを活用して段階的な指導を行い、遅刻の防止に努める。	
		交通ルールを守らせ、事故を未然に防ぐ		校外指導を実施したり、普段からHR等で注意を呼びかけてもらう。また、自転車点検・交通安全講話、バイク実技講習会・四輪車安全運転教室等を実施する。	
		問題行動を未然に防ぐ		全職員による立哨指導および校内巡回で昼休みの生徒の動向を把握したり、服装検査や様々な集会等で、起こりうる問題行動等について注意を促す。	
		教育相談活動の充実		教師の指導に加えて、スクールカウンセラーによる生徒へのカウンセリング、保護者への指導・助言等により、教育相談体制の一層の充実化を図る。	
	特別活動	生徒会・HR活動の活性化につとめる。	生徒会役員を中心に、生徒会組織を生かした学校行事運営を図る。	【達成状況】 【次年度への課題】	
		部活動加入率50%以上と、年間を通してのその維持に努める。	各部活動の入部者を増やし、意欲的な取り組みを促す。		
			部活動の生徒を中心に、学校周辺の美化活動等に取り組む。		
		クラスマッチ、文化祭等の学校行事に対し、生徒の主体的参加を促す。	生徒間の協議を活発化させることで、学校行事の充実を図る。		
	進路指導	進路指導の充実に努める。	生徒の個性に応じ、適切なキャリア教育を実施する。	【達成状況】 【次年度への課題】	
			進路実現100%を目指し、進学課外や教職員及び外部講師による模擬面接指導などの推進に努める。		
			教員間の連携をはかり、進路未決定者に対するきめ細やかな指導を行う。		
		進路ガイダンスの充実に努める。	進路に関する適切な資料や情報の提供、案内、説明、相談などを適宜積極的に行う。		
		求人確保及び開拓に努める。	企業訪問を行い、求人確保及び開拓を推進する。		
		職業意識の啓発に努める。	就業体験(インターンシップ)など様々な活動をとらして職業意識の啓発を図るとともに、進路選択を具体的に意識させる。		
	環境整備	自ら率先して清掃を行う態度を養い、奉仕の心を育む。	教室のワックスがけ、モップ交換を定期的に年間4回行う。	【達成状況】 【次年度の課題】	
			清掃監督を毎日きちんと行い、生徒の美化意識の向上に努める。		
学期毎の目標を設定して、環境衛生面での意識の向上を図る。					
環境問題等に関する意識の向上を図る。		学校周辺の空き缶・空き瓶・ごみ等の清掃を年2回行い、教育環境に関心を持たせる。 ゴミの分別をきちんとさせ、環境問題にも関心を持たせる。			
保健厚生	生徒の心身の健康増進を図る。	保健室の効果的な運営に努める。	【達成状況】 【次年度への課題】		
		諸検診の効果的な実施に努める。			
		専門家による性教育を実施する。			
	学校生活の安全教育に努める。	防火・防災避難訓練やAED講習会を実施するとともに、危機管理マニュアルの見直しを行う。			
	学習環境を整備する。	エアコン、ストーブの安全管理および生徒の健康管理に努める。 水質検査および室内環境検査等を実施する。			

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度への課題	
校務分掌	図書	情報センターとしての図書室環境を整備する。更に、災害に応じて多方面に活用できるようにしておく。	わかりやすい蔵書の配置・親しみやすい装飾にも務め、図書室を利用しやすい環境を整備する。		
			原則として、長期休業中も開館し、生徒の図書室利用率向上に務める。		
		読書指導と読書の推進を図る。又、洪水災害のため昨秋より中止になっていた新書購入を再開する。	1年生全員に図書室利用のオリエンテーションを実施する。		
			新刊本をカラーコピーし、廊下・階段・昇降口に掲示する。		
			職員に対して購入希望図書の調査回数を増やすとともに、随時購入希望を受け付ける。		
		生徒発行の「図書室だより」で新着図書案内を行い、同時に図書に対する関心を高める。			
	渉外	PTA各種行事、会合への保護者の参加率を高め、家庭との連携を密にする。	PTA総会や授業参観への出席率が昨年度の43%以上になるよう工夫をする。		
			学校の教育活動を積極的に広報するため、PTA広報紙の充実をはかる。		
			昨年度は水害のため自粛になったが、会員相互の親睦をはかるため、保護者対象の研修旅行等を実施する。		
			昨年度は水害のため自粛になったが、PTA支部研修会への出席率が向上するよう声かけをする。		
		鬼朋同窓会の組織強化に努める。	副会長、常任理事の増員を検討する。		
		スクールバスの円滑な運行をはかる。また、来年度予想される消費税増税への対応を検討する。	スクールバス運行委員会において、常に問題点を改善していく。		
情報管理	HPを通して、教育活動の公表に努める。	生徒専門委員会を活用し、ホームページの内容を充実させ、情報を発信する。			
	HPの運営に伴うガイドラインの作成を行う。	県の運営要項に沿ったガイドラインの作成をする。			
	情報の保護・管理に努める。	手引きに沿った個人情報の保護を、適正に管理する。			
	有線LANに伴うシステムの運用・保守に努める。	システムの変更等の際に、異常が出ないように努める			
学年	一学年	基本的生活習慣の確立に努める。	欠席・遅刻・早退を極力しないよう努力させる。高校生にふさわしい服装頭髪で生活させる。		
		基礎学力を身につけさせ、授業環境の質の向上に努める。	朝ドリルの実施、チャイムでの着席、ケータイの授業開始前の提出、私語・居眠り等をなくす等の指導を徹底する。		
		資格取得に主体的・自主的に取り組ませる。	1学年で取得すべき資格について、商業科の指導を学年をあげて支援する。		
		進路意識を高め、コミュニケーション能力の育成に努める。	ガイダンス及び面談の複数回の実施。挨拶の励行や言葉遣い等のマナーについてもその大切さを喚起していく。		
		充実した学校生活をつくらせる。	部活動への加入率と定着率を高め、学年行事も積極的に企画していく。		
	二学年	基本的生活習慣を身につけさせる。	・欠席、遅刻、早退等を極力しないよう努力させると同時に、家庭との連携を密にする。 ・高校生にふさわしい服装・頭髪で生活させる。		
		進路意識を高め、コミュニケーション能力の育成に努める。	・ガイダンスや個人面談を複数回実施すると同時に、インターンシップやオープンキャンパスに積極的に参加させ進路を明確にする。 ・挨拶と正しい言葉遣い等のマナーについて励行させる。		
		授業環境の質の向上に努める。	・チャイムでの着席の励行とケータイの授業開始前の提出の徹底。 ・授業中の私語や居眠り等をなくす指導を粘り強く行う。		
		資格取得に自主的・積極的に取り組ませる。	・2学年で取得すべき資格について、商業科の指導を学年をあげて支援する。		
		情報ビジネス科の特長をいかした指導の実現。	・各種検定試験の合格率80%を実現する。 ・高度資格取得にチャレンジさせる。		
三学年	社会人となることを意識したマナーの定着とコミュニケーション能力の向上をはかる。	鬼怒商の最高学年としての「アライド」を意識し、挨拶・服装・言葉遣い等模範生となるような指導をする。これまで通り家庭との連絡を密にし、生徒指導における小さなミスを見逃さず、学年一丸となって指導を行う。			
	キャリア教育の集大成として、自分の意志で進路を決定し、進路決定率100%を実現させる。	これまでの進路ガイダンス・面談等を通じて得た自己の適性に合う進路を選択し、決定に導くための進路関係の行事を月2回実施する。			
	授業環境の向上と生徒全員の卒業を実現させる。	学校生活が充実して終わるためには、残り少ない授業に「チャイムで始まりチャイムで終わる」ことを徹底させ臨ませる。			
	商業科の生徒が、最後まで各種検定試験に臨む意識を盛り上げる。	各自が目標とする各種検定試験の合格率80%を実現する。全商1級3種目合格者20名を目標とする。			
	情報ビジネス科の特徴を活かした高度資格取得の目標を達成させる。	日商簿記2級10名、ITパスポート10名、全商英語検定1級5名合格を目標とする。			

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分